Intergenerational justice across cultures：Empirical patterns and theoretical frameworks*

廣光俊昭[a]　小林慶一郎[b]　西條辰義[c]　中川善典[d]

要約

本研究は、西洋哲学と道徳心理学に基づく 12 原理を用い、米・仏・日・中・印・UAE・南アの 3,619 人を対象に、原理の公共的受容、政策での説得性、原理間構造を比較した．全原理の中央値は各国で 4 以上で、とりわけ清浄、危害原則、世界の存続の原理が高い．受容水準は概して新興国で高く、イデオロギー差は小さい．年齢、都市居住、子どもありは支持を押し上げた．政策別には、気候変動で清浄、危害原則、世界の存続、先端技術で危害原則と世界の存続に加え間接互恵性、財政で比例性が有効であった．「説得的原理なし」は少数だが、税などへの反発が悪影響を持つため、政策手段の正当化が必要である．因子分析と多次元尺度構成法は、原理が「保持・継承」と「制度・配分」の二主題に整理できることを示した．実装にあたっては、政策の種類と対象層に合わせて原理を使い分け、手段設計の説明を並行して行うことが有効である．

JEL 分類番号： D63，D91，Q54

キーワード：世代間正義、世代間倫理、道徳原理

---

* 本研究は，著者２が所属する『キヤノングローバル戦略研究所』の研究費で実施された．

[a] 財務総合政策研究所 toshiatoshia2@gmail.com

[b] 慶應義塾大学、キヤノングローバル戦略研究所 keiichirokbys@gmail.com

[c] 京都先端科学技術大学 keiichirokbys@gmail.com

[d] 上智大学 keiichirokbys@gmail.com

1. イントロダクション

地球システムの限界内で公正な社会を実現するには、規範理論の提示だけでなく、それが公共的に受容されることが不可欠である．本研究は、世代間正義の実装に資する基盤として「世代間倫理」を捉え、12 の道徳原理を文化横断的に測定・比較する．目的は、(i) 原理の公共的受容水準、(ii) 文化差と原理間の構造、(iii) 属性効果、(iv) 政策領域別の適用可能性、を統一枠組みで明らかにすることである．

既存研究は米欧圏に偏り、個別政策領域（特に環境）に限定されがちである(e.g., Haidt and Joseph, 2004; Graham et al., 2009; Graham et al., 2011; Nisbett & Spaiser, 2023). 本研究は、哲学と道徳心理学の統合により原理セットを包括化し、7 か国比較調査で公共受容と政策説得性を横断的に検証する点に新規性がある．

2. 方法

2.1. 分析枠組み：12 の道徳原理

対象は米・仏・日・中・印・UAE・南アの 7 か国、16 歳以上の 3,619 名．オンラインでサーベイを実施した．西洋政治哲学（平等主義、比例性、功利主義、十分主義、危害原則、利他主義、共同体主義、間接互恵、承認）をベースに、Moral Foundation Theory（MFT）に補完（権威、清浄）を統合し、積極／消極義務、個人化／紐帯の二軸で網羅的に整備した 12 原理を用いた．提示文は短いステートメントにより、理解補助の短い注釈を付した．

2.2. サーベイ設計

サーベイ 1 では 12 原理の適切性を 7 件法で評価．サーベイ 2 では、気候（炭素税）、財政（増税による債務削減）、先端技術規制（開発禁止）の 3 課題で、どの原理が説得的かを複数選択で回答（自由記述つき）．提示順は項目内・課題間とも被験者内でランダム化した．

3. 結果

3.1. 公共的受容水準と文化差

12 原理はいずれの国でも中央値 4 以上．特に清浄、危害原則、世界の存続が高評価で、総じて新興国の水準が高い（表 1）．国別平均を控除した MDS（ユークリッド距離×metric, Stress-1=0.186；相関距離×average, Stress-1=0.181）では、Dim1＝「未来を守り、つなぐ（＋）↔ 現在を律し、秩序を保つ（−）」、Dim2＝「保持・継承（＋）↔ 制度・配分（−）」が安定して再現された．先進国（米・仏）と中国は前者側、新興国（印・UAE・南ア）は後者側に布置し、日本は保持・継承側の外れ値となる．

3.2. 個人属性効果

年齢上昇・都市居住・子どもありがおおむね正方向．イデオロギーは全体で非有意．抽象的ステートメントでは、状況固有・党派的手がかりより一般原理への依拠が強まるとの先行研究の示唆とも整合的である．

3.3. 政策領域別の説得性

気候では清浄、危害原則、世界の存続、財政では比例性、間接互恵性（加えて危害原則）、先端技術では危害原則、世界の存続/間接互恵性が上位であった．危害原則は領域横断で堅調、清浄は環境での強く、比例性は財政で高い説得力を持つ（表２）．「説得原理なし」との回答は、1 割前後に留まるが、一部には税・禁止といった手段への嫌悪が背景にある．

3.4. 原理間の構造

原理間構造に関し、因子分析は「保持・継承」対「制度・配分」の二極を確認し、MDS の Dim2 と整合した（図１）．世代間倫理は文化普遍的な核を持ちつつ、先進国と新興国の間で未来志向／現在志向の差異が残る．

4. ディスカッション

文化差については、仮説 1a（先進国＝個人化優位）は支持されず、仮説 1b（新興国＝紐帯優位）は概ね支持された．世代間倫理では、文化を通じて紐帯基盤が優勢である．世代間倫理は同時代の個人間に適用されるものではなく、将来世代と現世代の関係に適用される．先進国でも紐帯基盤が優勢であるのは、この世代間倫理の特殊性に由来するものと思われる．道徳原理のランキングの国の間の順位相関は総じて高く（0.888–0.504）、世代間倫理の原理間に普遍的な構造があることを示唆する．ただし、このことは、文化差が存在しないことを意味しない. 国別平均を控除したデータに実施した MDS によると、先進国クラスター、新興国クラスターが形成され、日本が外れ値に位置した．世代間倫理は文化普遍的な核を持ちつつも、先進国と新興国の間には依然として差異がある．

個人属性のうち、年齢による原理への支持の上昇の説明は、1)人生経験が道徳原理の理解を促す可能性、2) 世代的なコホートの効果の二つの可能性がある．示唆的なのは、都市居住と道徳原理への評価が正の関係を持つことである．近代的な生活や価値になじんでいる都市居住者の方が、道徳原理によく反応することは、世代的なコホート効果よりも、人生経験による効果に基づく説明の方がもっともらしいことを示唆する．イデオロギーについては、MFT の先行研究と本研究の結果は一致しない．ただ、先行研究の結果は、「もし自分が兵士で、上官の命令に反対しても、自分の義務だから従うべきだ」（Graham et al., 2009）

などの具体的状況への反応を元に計測したものである．本研究のステートメントは高度に抽象化されており、心理的距離が大きい文脈では、人は固有の状況や党派的手がかりより一般原理に依拠して判断する傾向がある（Eyal et al., 2008; Syropolos et al., 2024）.

政策応用では、どの原理が効くかは政策課題に依存することを示した．実務的には、ある政策に向けて人々を説得する必要があるという前提に立つ限り、HP を共通の土台に、気候＝清浄、技術＝世界の存続、財政＝比例性を課題固有の前面原理として組み合わせ、さらにセグメント（年齢・都市・家族）に応じて道徳原理を選択的に用いることが有効である．たとえば、高齢層には紐帯基盤の原理、子どもを持つ者にはケア基盤の原理での働きかけが有効である．手段への嫌悪が目立つ場面（財政の税、技術の禁止）では、段階的導入、補完策を同時提示することで、「原理は支持するが手段が嫌」な層の離脱を抑えうる.

この政策含意に対しては、世論操作の道具であるとの指摘も予想される．ただし、1)道徳原理による説得は、市民が既に持っている価値観を活性化するものである．また、2)道徳的説得は人々の意思決定の文脈を設計しているに過ぎず、選択そのものを強制しているわけではない．最後に、3)道徳的説得は感情的共鳴の導入部として用いるものであり、その先の熟慮的対話へとつなげることが望ましいことを指摘したい．Caniglia et al. (2023)は、こうした対話プロセスを支えるため「実践知（practical wisdom）」と「徳倫理（virtue ethics）」の重要性を指摘する．道徳原理が世代間の利害対立の解決という目標を定める一方、その目標を現実世界で達成するには、研究者や政策立案者の実践知が不可欠であると指摘する．本研究の成果は、このような実践知が働く基礎的なフィールドを確立するものである.

5. 結論

世代間倫理の 12 原理は広く公共受容され、政策説得性は課題依存的に異なる．実務的には、危害原則を共通土台に、気候＝清浄／世界の存続、技術＝世界の存続／間接互恵、財政＝比例性を前面原理として組み合わせ、セグメント（年齢・都市・家族）に応じて補助原理を選択する設計が有効である．理論的には、既存の積極／消極義務や個人化／紐帯では捉えきれない二主題（保持・継承／制度・配分）が浮上した．今後は、行動指標を伴う介入実験により、原理の行動化メカニズムと原理間の動的関係を解明する必要がある.

引用文献

Caniglia, G., Freeth, R., Lüderitz, C., Leventon, J., West, S. P., John, B., Peukert, D., Lang, D. J., von Wehrden, H., Martín‐López, B., Fazey, I., Russo, F., von Wirth, T., Schlüter, M., and C. Vogel, 2023. Practical wisdom and virtue ethics for knowledge co-production in sustainability science. Nature Sustainability 6(5), 493-501.

Eyal, T., N. Liberman, and Y. Trope, 2008. Judging near and distant virtue and vice. Journal of Experimental Social Psychology 44(4), 1204-1209.

Graham, J., J. Haidt, and B. A. Nosek, 2009. Liberals and conservatives rely on different sets of moral foundations. Journal of Personality and Social Psychology 96(5), 1029-1046.

Graham, J., B. Nosek, J. Haidt, R. Iyer, S. Koleva, and P. J. Ditto, 2011. Mapping the moral domain. Journal of Personality and Social Psychology 101(2), 366-385.

Gupta, J., D. Liverman, K. Prodani, et al., 2023. Earth system justice needed to identify and live within Earth system boundaries. Nature Sustainability 6, 630-638.

Haidt, J., and C. Joseph, 2004. Intuitive Ethics: How Innately Prepared Intuitions Generate Culturally Variable Virtues. Daedalus 133(4).

Nisbett, N., and Spaiser, V. 2023. How convincing are AI generated moral arguments for climate action? Frontiers in Climate. 5:1193350.

Syropoulos, S., Fiore, K., Kraft, G., Mah, A., Markowitz, E., and Young, L. 2024. Responsibility to future generations: A strategy for combatting climate change across political divides. Br J Soc Psychol. 64 (1), e12775.

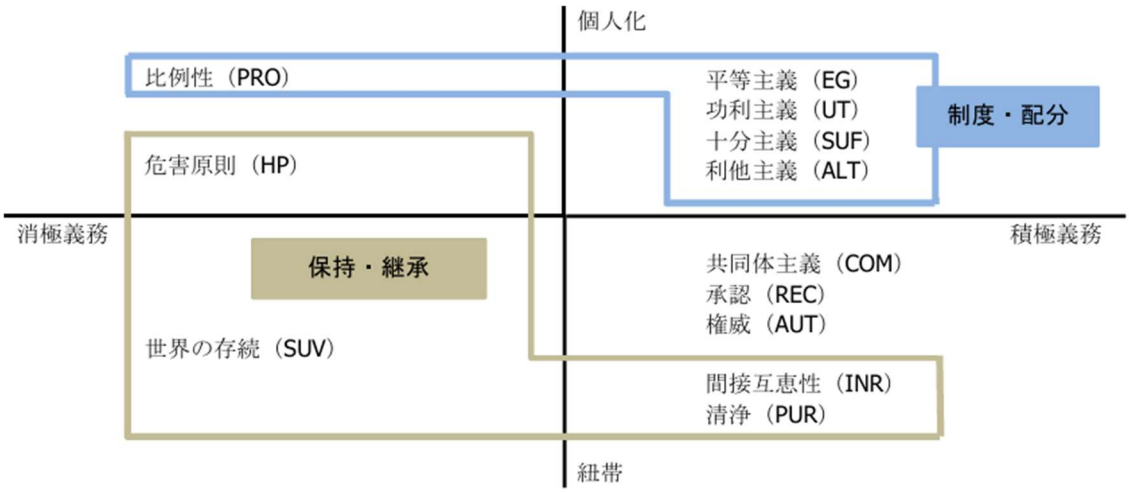

図 1 道徳原理の分類

表 1 道徳原理のランキング（評価スコアの平均値による）

Ranking	グローバル		アメリカ		フランス		日本		中国		インド		UAE		南アフリカ	
	原理	Score	原理	Score	原理	Score	原理	Score	原理	Score	原理	Score	原理	Score	原理	Score
1	PUR	5.21	HP	4.95	PUR	5.18	PUR	4.68	PUR	5.28	PUR	5.39	PUR	5.49	PUR	5.51
2	HP	5.10	SUV	4.91	SUV	5.01	HP	4.65	ALT	5.22	ALT	5.31	HP	5.46	HP	5.46
3	SUV	5.06	ALT	4.88	HP	4.97	SUV	4.60	SUV	5.21	INR	5.29	REC	5.36	ALT	5.46
4	ALT	5.06	PUR	4.87	ALT	4.87	INR	4.54	INR	5.16	COM	5.26	INR	5.34	COM	5.36
5	INR	5.04	INR	4.82	INR	4.86	COM	4.42	COM	5.10	HP	5.22	ALT	5.29	AUT	5.27
6	COM	5.02	COM	4.82	COM	4.84	PRO	4.36	REC	5.06	AUT	5.18	AUT	5.29	SUV	5.27
7	REC	4.91	SUF	4.78	SUF	4.76	ALT	4.32	SUF	4.92	UT	5.17	SUV	5.25	INR	5.25
8	SUF	4.90	EG	4.72	UT	4.66	SUF	4.20	HP	4.90	REC	5.16	COM	5.24	REC	5.20
9	AUT	4.87	REC	4.69	REC	4.65	UT	4.19	UT	4.86	SUV	5.13	SUF	5.21	SUF	5.20
10	UT	4.84	AUT	4.67	AUT	4.60	AUT	4.17	AUT	4.84	SUF	5.13	PRO	5.19	UT	5.07
11	PRO	4.75	UT	4.65	EG	4.60	REC	4.15	EG	4.69	EG	5.06	UT	5.17	PRO	5.02
12	EG	4.71	PRO	4.47	PRO	4.54	EG	3.97	PRO	4.60	PRO	5.02	EG	5.05	EG	4.84
Avg.	4.96		4.77		4.79		4.35		4.99		5.19		5.28		5.24	
積極-消極	-0.02		-0.01		-0.06*		-0.25***		0.11***		0.09***		-0.03		-0.01	
個人化-紐帯	-0.13***		-0.06**		-0.12***		-0.15***		-0.24***		-0.08***		-0.10***		-0.14***	

注[1] EG：平等主義、PRO：比例性、UT：功利主義、SUF：十分主義、HP：危害原則、ALT：利他主義、COM：共同体主義、INR：間接互恵性、REC：承認、SUV：世界の存続、AUT：権威、PUR：清浄。注[2] 道徳原理の名称の右手に評価スコアの平均値を掲載した。注[3] 各サンプルの平均回りの一標準偏差を上回るスコアを記録した原理に赤字で着色し、一標準偏差を下回る原理に青字で着色した。注[4] Avg. 行は全12原理のスコアの平均。「積極-消極」の行は、積極義務のスコア（平均）から消極義務のスコア（平均）を控除したもの。「個人化-紐帯」の行は、個人化基盤のスコア（平均）から紐帯基盤のスコア（平均）を控除したもの。平均の差の検定を実施し、有意な差のある時、***1%有意、**5%有意、*10%有意とした。

表 2 気候変動、財政、先端技術における回答：説得力のある原理（単位：%、複数回答可、グローバルサンプル）

Global	EG	PRO	UT	SUF	HP	ALT	COM	INR	REC	SUV	AUT	PUR	NON
気候	0.230	0.275	0.232	0.251	0.339	0.259	0.266	0.291	0.254	0.322	0.316	0.369	0.092
財政	0.235	0.294	0.255	0.272	0.301	0.260	0.273	0.293	0.252	0.281	0.248	0.277	0.133
TECH	0.217	0.299	0.236	0.247	0.359	0.252	0.262	0.304	0.256	0.329	0.278	0.295	0.112